

ももぐみだより



つむいで♪つむがって♪つむがって♪つむがって♪つむがって♪つむがって♪つむがって♪つむがって♪またつむぐ



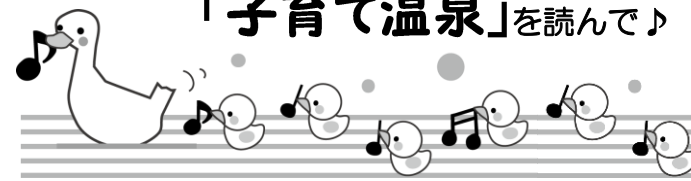
2007年春 子ども情報研究センターに「保育部ももぐみ」が誕生しました。

ももぐみだよりは12号になりました。

これからも私たちは子どもの人権を大切にする保育をめざし
子ども・保護者・保育者とのかかわりを考えながら活動していきます。

～新しい子育て・子育て支援～

「子育て温泉」を読んで♪



「子育て温泉」には、読んで何かしらほっとできる温かさがあります。まさに温泉の心地よさです。

それは、迷ったり悩んだり、自信がなかったりする「私」を「それでもいいんだよ」と言ってもらえる安心感でしょうか。

4月から地元でつどいの広場を始めました。まだ毎日開くだけでいっぱいいっぱいですが、早くスタッフのみんなや利用者のママさんたちと「子育て温泉」を真ん中に、おしゃべりする場をもてるようになりたいと思っています。 九門りり子

子育てのための参考にはなると思う。ただ、本書はあくまで参考で、もっと実際にはいろんな人に相談しながら、人間関係を築いた上での子育てが求められているのではないかなと思う。 50歳男性

つどいの広場や一時保育の場に参加させていただける時に、あれっ？これってどないなんっ？と思う事があります。つつい自分と同じ価値観を求めているのかもしれない。そんな時にこの本を読み返してみると、違うことの大切を思い出します。居心地のいい場には、違いを尊重し合う空気感があるんですね。子育て温泉に入ると、あなたもわたしもみんな違うけれど、みんな大切だと思えるほんわかかな気分になります。悩んだり迷ったりした時は何回でも入りたい温泉です。 季句子

『子育て温泉』こんなタイトルみたことない！
「ほっかほか」「にっこにこ」「ゆーらゆら」「すーべすべ」
「ぼこっぼこ」いろんな効能が詰まった本。
この本をめくっていくと、子どもと向きあっている時、ついこちらの思いを通したくなる自分を感じます。「子どもの人権を大切にしたい」そう思っているけど、できていない自分があります。どんどん読んでいくと、自分を見つめ直すことも大切だけれど、私自身が温泉気分になることで、周りにも、のんびりオーラがでたら良いな。
『ももぐみ』の集まりにいと、とってもほっとします。情けない自分も肯定してもらえることで、言い訳や何かのせいにせず、自分のことも大切に思えるような気がします。“せかせかさん”の自分をみつけたら、「温泉・おんせん（温泉気分）」となえて、ほっかほか気分が優しい気持ちになりたい！と思いました。 脇坂加代子

たくさんのつぶやきを見て、いろいろなかたとつぶやきたくなりました。この本を通して、みなさんとつながれたこちよさが、ぼこっぼこと湧き出ています。 AKIKO

1冊 600円（税込・送料別）
*お申込みは
子ども情報研究センターまで



イヤイヤをすること
生まれてくること

「保育部ももぐみ」は“子どもの人権”を大切にする保育をめざして活動しています。
“子どもの人権”とは何でしょうか？
『子ども自身が本来もっている力や生きていくために必要なものを誰にもじゃまされたいせつなもの』

たくさん笑うこと

おっぱいやミルクをのむこと
名前をつけてもらうこと
抱っこしてもらうこと

発行責任者
社団法人子ども情報研究センター
保育部ももぐみ
住所 〒552-0001
大阪市港区波除 4-1-37
HRCビル5階
※JR大阪環状線・地下鉄中央線
「弁天町」駅下車 北東 700m
TEL 06-4708-7087
FAX 06-4394-8501
E-mail info@kojoken.jp

♪親の気持ち

4月より、小学校に入学した娘の送迎をお願いしています。初めてのサポートの日は、娘が“待ち合わせ駅を乗り過ごす”といったハプニングがあり、ご迷惑、ご心配をおかけしましたが、大幅遅刻で到着した娘を「どこ行ってたの～(〃^_^〃)」と提供会員さんは、笑顔で迎えてくださり、ドキドキしていた娘は、ホーッと力が抜けたようです。

毎回提供会員さんからいただく報告書からは、私が見えない日常の出来事をいろいろと話している娘の様子がかがえます。子どものたわいない話を聴けていない親の足りない部分を反省するとともに、ささやかなエピソードに耳を傾け受けとめてくださる提供会員さんに頭の下がる思いです。

あたたかいみなさまに支えられ、見守っていただけること、心地よい環境のもと、娘が成長してゆけることに心から感謝しています。

はなちゃんの母

♪子どもの気持ち はなちゃん(小1)



いろんなお話をするのがたのしいよ



ファミサポの人はやさしいよ

子どものこえおとなのこえ 特集

はじめて…しました



はじめて保育園に通って

♪保育所の給食すきやねん！
「今日はおやつ、ケーキやった」
「今日は、しいたけだけやった(ほかは嫌いなものだったな?)」
たまに、「今日は、おやつが出なかったー」
ママ「ほんとかな？」
それは、もっと食べたかったってことかな？」

♪れいみちゃんのマークは、
オレンジの四角のかたち。
これはちゃんとおぼえたよ

♪月曜日の朝。
「保育園に行くとき、怜美ちゃん、
パパといきたかってん。それで泣いてたねん」
(ママはなんでわからんの?)
「保育園に行きたくないときもあるけど、パパと行きたいだけ！
(のときもあるのよ～)」

わたし、
3才です、
怜美



はじめて担任になって

4人の子育て専業主婦から非常勤勤務保育士になって9年経ちます。仕事内容が徐々に変わり責任が重くのしかかるようになってきました。今年、私は4歳児30人(広汎性発達障害児1人を含む)の副担任となったのです。今まで経験したことのない勤務内容に頭の中は真っ白！

相棒の先生は3歳組からの持ち上がりで中堅です。子ども達はその先生の言う事を良く聞き、すぐくかしこいです。信頼関係が出来るっていいなあ。私も頑張らないと。でも実態は深刻でした。その先生の姿が見えなくなると、「大騒ぎ！大はしゃぎ！ふざけて、おちよけて！」と言うのでしょうか？「先生一人になったら怒られへんからこんなことになるん？」と、思った私は、大声を出して「こらっ！いい加減にしてっ！」と、言ってみました。状況はわかりませんでした。その時ふと「去年1年間どう言う思いで、保育所に来てたんやろうか、この子どもたち・・・」と、考えました。

中学生になって感じたこと

おとなになったような扱いを受けて不安な気持ちになる。胸がそわそわむずむずする。学校へ行ったら、学校が大きい。友達が増えた。弁当がうれしい。おもしろい。教科で先生が変わり、いろんな先生がいておもしろい。小学校の時より宿題が少ない。トイレがきたなくていやだ。ジュースのパックなどが落ちている。きまりが多くて大変。他の学年の教室前のろうかに行ってもいけない。先生がこわくなった～まき舌でしゃべる先生がいる。先生や先輩に敬語をつかわないといけない～敬語に慣れないのでしゃべりにくい。

ひろ



はじめて幼稚園に通って

この4月から、息子は幼稚園に通いはじめました。制服はブカブカ、カバンも帽子も何もかもが大きい年少さんです。初めての幼稚園、いろんな意味でドキドキ。初登園の日、泣きましたが、お迎えの時は笑顔でした。が、次の日も、その次の日も、登園のときには泣いていました。一週間後には、ケロッとしたように泣かず、それからは毎日楽しそうに通っていたのですが、GWを過ぎたら、また登園時に泣くようになりました。これが噂に聞くGW後の登園しぶりか～と思いを聞いていたら、また一週間ほどでケロッ。息子にとって一週間は、気持ちの準備期間だったのかなあ？

今では、毎日「早く行きたい」コール。今日したことを教えてくれたり、お友だちの名前が出てきたり、覚えてきた歌を歌ったりと毎日楽しそうに話してくれます。毎晩主人と私を園児役にして先生ごっこ。日に日に成長していく姿を、嬉しく見守っています。

母の心配はよそに子どもたちはすくすく大きくなっていきますね。頼もしいような、それでいて寂しいような…ときどき甘えてくる息子をギュッと、いや、ギュ～～～ッ！！と抱きしめながら、この感触を絶対に忘れないでおこうと胸に誓う母なのでした。

岡崎真希

ファミリーサポートの提供会員になって

ファミサポの援助会員になり1年半余り、初めて本格的に依頼があり、1歳4カ月のUちゃんの援助が始まりました。お母さんが残業の日、月に一度の利用です。

Uちゃんは、6時に保育所にお迎えに行き、9時前まで我が家で過ごします。面接で、Uちゃんが初めて我が家にやってきた日の喜びはすごいものでした。すでに我が子は自立し、夫と二人の生活に、まるで孫がやってきたかのような新鮮な感覚?!にウキウキでした。以来我が家には、小さな子ども椅子に食器、おもちゃ等Uちゃん用の物が日増しに増えています。車のベビーシートも初体験!夕食は、もちろんUちゃん中心メニュー。「なんかいつもよりええもん食べさせてもらえるなあ」と夫のつぶやきが聞こえます。そういう夫も、Uちゃんの来る日はいそいそと帰宅しているのです。

月に一度の利用なので、始めの数分は拒否ですが、大分慣れてきて、今は、Uちゃんの大きな声や笑い声が聴かれるようになりました。

最近、残業を終えて急いで迎えにきたお母さんに、一緒に帰るのを“イヤイヤ”したUちゃん。お母さんには申し訳ないけど、やっと我が家を受け入れてくれたUちゃんに“ヤッター”と安心の思いでした。

月に一度の利用であっても、残業して頑張るお母さんのお手伝い出来る嬉しさと、Uちゃんに会える楽しさを味わっている援助会員です。

かわさきみちこ



はじめて我が子を保育所に通わせて

保育所に、一歳の娘を預けることになりました。最初の二週間が慣らし保育で、どうしようかと困りました。(フルタイムで復帰することにしていたので、復帰先がまだ決まっていなかったのと、最初の日は2時間、次は半日とかの保育は、時間的に難しかったです)園とお話しして、子どもの負担のないようにという配慮で、理解はできるのですが、正直どうなることかと思いました。幸い実家の母、夫の母両方に手伝って頂き、なんとか慣らし保育期間を過ごすことができました。

我が子は登園二日目にして、担任の先生の後追いをし、早く慣れてくれました。親としては複雑な気持ちもありますが順応性が高いということでもよかったと思います。今まで、熱を出して休んだのは三日だけで助かっています。今は連絡帳の先生方からのコメントとお迎えに行った時に先生から子どもの話を聞くのが楽しみです。

保育園に預かって頂いてから職場復帰して精神的に楽になりました。私の場合復帰先がはっきりしてなくてその不安も大きかったですし、何より一人の時間をもてるようになったことが大きかったです。

子どもをもってから役割としての「母」をよく感じます。子どもの前ではとりあえず冷静でいなくてはいけません。あと無駄なエネルギーは使わないように前向きに行こうと思います。毎日がただ平穏に過ぎることを願っています。

まきちゃん

自分達の思いを封印し、何一つ逆らう事も出来ず、かしこく時を過ごす子ども達。このおとな縮小版のかしこさは、「ノー!」とは言えない立場の弱い子ども達の「行き場のない行きついた先」だったのだと思いました。

相棒の先生からは「3歳児の時は落ち着いていたのに」と、何気なく言われ、「私のせいですか?この子ども達の今の姿?」と、言葉に出して言う事もできず、「どうしたらいいん、私?!」絶対に染まりたくないし、気まづくもなりたくないのです。

去年担任の先生たちが、この子どもたちのために必死で保育されたであろうことは私の脳の中にキチンと収めて、どこまでできるかはわからないけれど、子どもたちの声を聴こう。一緒に遊ぼう。絵本をいっぱい読もう。一緒にいっぱい発見しよう。子ども達の無邪気な笑顔を願って、つらい事も楽しい事も共有したいと思っています。

YM